

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200896		
法人名	株式会社クリエイト		
事業所名	グループホーム久慈浜	ユニット名(2F)	
所在地	日立市久慈町3-4-14		
自己評価作成日	令和 5年 9月 30日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意見を聞きながら、カラオケやイベントを企画し実施している。毎日の生活の中でも利用者様のやりたいことをできるよう見守り、一人一人が役割を持って生活できるよう支援している。畑では野菜作りをし、収穫した野菜を食事やおやつに提供している。年2回の総合消防訓練を実施するほか。毎月、地震、津波、洪水、竜巻、近隣火災などを想定した自主防災訓練を行っている。アクシデント、インシデントがあった時は、職員全員が内容を共有し、原因を探り、再発防止できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に全員で理念3項目を唱和し意識づけしている。理念をもとに利用者様の生活を支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩し、地域の住民の方々と挨拶を交わしたり、毎月ゴミ拾い週間を決め、近所の清掃に取り組んでいる。近隣のレストランで外食したり、商店で買い物をする。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民に運営推進会議の委員を依頼し、意見をいただいている。散歩中にも認知症に関する話を聞かれ話をすることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍のため、開催していないが、委員に状況の報告をし、意見、助言を頂いている。議事録は2階エレベーター前にも掲示し誰でも見られるようになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、市の社会福祉協議会の介護相談員が来所している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束の指針」を作成し、職員はいつでも確認できるようにしている。3ヶ月に1度、身体拘束廃止委員会を開催し、職員の研修を行う。毎月身体拘束がないか、一人一人チェックし記録に残す。玄関は外部からの侵入者対策のため施錠しているが、入居時に家族にも説明し施錠に関する同意書をいただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、施設内研修を定期的に行ない、事業所内にポスターを掲示して常に意識するようになっている。利用者様に不適切ケアが行われていないか、スタッフ会議で話し合い職員がお互いに注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は施設内研修で学ぶ機会がある。成年後見制度については、手続き支援を行い利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当職員が十分理解が得られるよう説明し、契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、面会時に家族の意見、要望をお聞きし運営に反映している。意見、要望、苦情はご意見レポートに記入し、職員間で共有し対応している。毎月介護相談員が来所し利用者様は話を聞いてもらっている。玄関にご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案、改善ノートがあり、書かれた内容が毎月のスタッフ会議の議題になり、反映される。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修参加や各種資格取得がしやすいよう配慮し、向上心を持って働けるよう努めている。希望の休みが取れ、残業がないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修を行う。希望する外部研修に参加できるよう勤務調整している。新人には一定期間指導者が付き、仕事を覚えてもらうようにする。施設内に介護関連の図書を置き貸し出しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと運営推進会議の委員として、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく入居していただけるよう、入居前に利用者様と面談したり見学に来ていただいている。ニーズに応えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学していただき、不安なこと等、よく話を伺うようにし信頼関係が築けるよう努めている。ご家族の要望も介護計画に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話しを聞き、情報収集を行い、必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、食器洗いや米とぎなどの家事をできる方には行って頂き、役割を持って生活できるように支援している。おやつ作りなど一緒に行ったり、些細なことでも手を借りるよう声掛けし職員と一緒にいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	制限はあるが状況に応じ面会でき、一緒に過ごせる時間を大切にしている。アクシデントがあれば一緒に対策を考えることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は制限があるが、手紙や写真を送ってもらったり、馴染みの関係が継続できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士で話ができるよう、座席の配慮をしている。利用者様同士の良い関係が築けるよう支援している。1, 2階自由に行き来ができ、イベントなどでも、1, 2階の利用者様が交流する機会も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族から電話がかかってきたり、相談があればその都度対応し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様の希望を聴き実現できるよう検討している。困難な場合には、今までの様子やご家族からの情報をもとに検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施している。ご家族にも昔の話を聞き、なじみの物や趣味のものを自宅から持ってくるなど生活環境を整えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に沿った介護を実施し、食事、水分量、排泄、睡眠、バイタルサイン、行動等を記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の話を伺いモニタリングし、診療情報提供書や看護師の意見を取り入れ、カンファレンスを行って介護計画を作成している。状態変化時はその都度見直しを行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って介護記録を記入している。ご本人の発言、行動、表情などを細かく記入し、共有化、振り返りをしやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ラジオ体操を毎日実施する。週1回カラオケを行っている。各階にあるエアロバイクはいつでも利用できる。希望者は診療所や歯科医の往診を受けることができる。月1回散髪も施設内で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防署、交番に協力を仰いでいる。地域の図書館などを利用し、商店で日用品を購入する。病院受診などの外出時は地元のタクシーを利用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人、ご家族の希望で決定している。ご家族と通院したり、職員が付き添うこともある。往診を依頼している方もいる。協力医によるコロナウイルスワクチンやインフルエンザ予防接種を施行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時、緊急時は直ちに報告し、指示をもらい、病院受診など対応が迅速にできるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での様子、経過のサマリーを提出し、入院中も電話等で情報を交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる指針、看取りに関する指針を作成している。契約時に説明し方針を共有、同意を得ている。段階に応じご家族と話し合いをしながら支援できるように努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。職員はAEDの取り扱いを学び、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署と連携し、総合防災訓練を実施している。夜間訓練、洪水、津波、竜巻等いろいろな災害を想定し、毎月、自主訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は〇〇様とお呼びし、言葉遣いなど言動が不適切でないか、施設内接遇研修を行いチェックし、一人一人の人格を尊重した言葉かけができるよう意識付けしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく話を伺い、希望を表すことができるよう配慮している。利用者様に分かりやすく説明し、意思表示、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めていないが、散歩やレクリエーションは利用者様のペースや希望に配慮し、入浴時間は希望を聞いて行っている。消灯時間もなく、居室で一人でテレビを見たり読書をするなどくつろぐ時間もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んだ好みの服が着られるよう支援している。出張理容を利用し、好みの髪型を伝え、きれいに髪を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を利用者と職員と一緒に収穫し、食卓に出す。外食で好きなメニューを選んで食事をする。そば、うどん、ラーメンなど麺の昼食を定期的に提供したり、1・2階合同で昼食会をする。食事、片付けは利用者、職員と一緒にやる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ずつ適量の主食量を図り、副食もカロリー計算した食事を提供している。水分量を記録し把握する。体重測定を行い増減を把握し食事量を調整したり、体重減少の著しい方には主治医と相談し高カロリー飲料を処方してもらうこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの言葉かけをしたり、口腔ケアの介助を行う。希望者は定期的に協力歯科医、歯科衛生士による検診、口腔ケアを受け、必要な方には義歯の作製や調整をしてもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、失禁を含め排泄の記録を行い、尿意の訴えない利用者様の排泄のサインを見逃さず言葉かけやトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ったり、オリゴ糖、乳酸菌を摂取していただいたり、できるだけ体を動かすよう支援している。主治医と相談し下剤を調整しながら内服している方もいる。家族が整腸作用のあるお茶を持参し飲用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回、15時頃から入浴しているが、希望に応じていつでも入れるよう支援している。入浴時間や順番など利用者様の希望を聞き決めている。季節によってゆず湯等楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めていない。介護記録に睡眠時間を記入し状態に応じ昼寝もしている。入居時馴染みのベッドや布団を持ってきていただき使用している。室温調整など安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルと薬袋で確認できるようにし、用法、用量など理解している。服薬チェック表を使用し、薬の準備時2人で確認したり、個別の名前付きの薬箱を使用し、名前を確認しながら配薬している。確実に服用できるよう誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を確認しながら、家事など役割が持てるよう支援している。カラオケや趣味の活動なども意欲的に行えるよう支援している。好きな飲み物を確認しいつでも飲めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、日光浴などは日常的に行っている。希望者は、近隣の店に買い物に行く。コロナ禍で制限はあるが、家族と外出されることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご家族と相談し現金を所持している。近隣店舗で菓子や日用品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の兄弟から手紙が届いたり、家族から電話があり取り次いでいる。年賀状を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲く花を食堂や洗面所に飾っている。季節に応じ、居室には炬燵や加湿器、トイレや脱衣所にはヒーターを設置している。施設内は日中、BGMを流している。食堂には季節ごとのイベントの写真や利用者様の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室、エレベーター前のソファー等、それぞれ好きな場所で過ごすことができる。気の合う利用者を自分の居室に招いたり、本や新聞を見ながら会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、テレビ、テーブル、椅子、炬燵、仏壇など自由に持ってきていただき、好みの空間を作っている。家族の写真や好きな芸能人のポスターを壁に貼っている。毎日、居室内を清掃し清潔に過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段には手すりがあり、安全に歩行でき、歩行の練習もできる。居室やトイレの場所が分からない方には、大きく名前やトイレの表示をしている。各居室に呼出しボタンがある。		